

- ◆ 1 ページ
  - ・ 研修紹介  
(高等学校教科教育専門研修Ⅲ  
【全教科共通】)
  - ・ 学校紹介(可部小学校)
- ◆ 2 ページ
  - ・ 授業づくりシリーズ  
学ぶ意欲が高まる授業を目指して(言語・数理運用科編)
  - ・ 教育センター情報  
「21世紀教育セミナー」他

高等学校教科教育専門研修Ⅲ(全教科共通)より

## 研修紹介 主体的・対話的で深い学びを追求 ～和気閑谷高校の授業改善～

高等学校教科教育専門  
研修Ⅲ(全教科共通)

平成29年8月8日に、岡山県立和気閑谷高等学校の香山真一校長をお迎えし、「主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善」をテーマとした研修を実施しました。研修は、①和気閑谷高校が追求するアクティブ・ラーニング型の授業を模擬授業形式で体験  
②「主体的・対話的で深い学び」に向けた理論研修  
③研修の振り返り、の3部構成の内容で行われました。研修において香山校長は、和気閑谷高校が追求している授業について、以下のように述べられました。



これまでの授業	現在追求している授業
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 知識が教師から学習者に一方的に伝えられる授業</li> <li>○ 学習者は受け身</li> <li>○ 学習者は知識を「覚える」のみ (→ 教えたことの定着率が低い)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学習者が知識を主体的に創り出す授業</li> <li>○ 学習者は主体的</li> <li>○ 学習者が学習課題と向き合い、他の学習者との対話を通して、今もっている知識を新しい知識に組み替える</li> </ul>



また、和気閑谷高校の追求する授業の実現に向けた教師の役割として、次の3つが重要であることを述べられました。

- ① 学習環境をデザインすること(学習形態、ICTの活用等)
- ② 学習者と学習者の対話や人間関係をつなぐこと
- ③ 学習者が今もっている知識を新しい知識に組み替えることを助けること(ジグソー法による授業の実践、学習課題の設定の工夫等)

## 学校紹介 児童が主体的に関わる健康づくり

可部小学校

可部小学校では、知・徳・体の調和的発達を願い、豊かな社会性と生活力を身に付けることをめざして、**健康教育**に取り組んでいます。

その中の、**体の健康**に関して、健康教育に関わる委員会活動、児童主体の学校保健委員会、全校で体を動かす「おはようタイム」や始業前に学ぶ保健指導、個人の健康状態をポートフォリオのように記録し、健康の自己管理を行う「健康手帳」、PTAが保護者の視点から編集し、発行する「健康だより」等、学校全体で様々な取組を行っています。

今回は、その中でも児童が自ら課題を見つけ、主体的に関わる取組として「**健康教育に関わる委員会活動**」と「**児童主体の学校保健委員会**」について紹介します。

### 児童が主体的に関わる取組

健康教育に関わる委員会活動				児童主体の学校保健委員会	
児童委員会活動において、 <b>全ての委員会</b> が、体力、食、病気予防、環境整備等、 <b>健康教育に関わる課題</b> を見つけ、それに対する取組を考え、実践していく。				年2回の学校保健委員会に、保健・給食・運動委員会の <b>児童が参加</b> し、7月の第1回目において、各委員会の <b>健康教育に関する取組の計画</b> を発表し、2月の第2回目において、その <b>取組の成果</b> を報告する。	
委員会	活動内容	委員会	活動内容	 会議の様子	 「目の健康」に関するスタンプラリーの取組
図書	健康に関する本紹介	飼育	動物(命)とのふれあい		
放送	健康・運動行事紹介	広報	健康・運動行事紹介		
運動	運動推進、環境整備	ベルマーク	健康・運動に関する道具整備		
給食	残食を減らす取組	わかたけ	高齢者との交流情報発信		
生活	安全・衛生環境整備	園芸 ビオトープ	植物(命)の環境整備		
保健	病気予防の取組				

～子どもの心に  
火をつける～



# 学ぶ意欲が高まる授業を目指して

子どもたちの「学ぶ意欲」を高めるためには、1時間の学習過程の中の「導入場面」「課題認識場面」「課題解決場面」「振り返り場面」の中で、子どもが主体的になれる活動を仕組むことが重要です。

今回は、課題解決場面に焦点を当て、子どもたちに「こうやって考えればよいのか」という思いを引き出す指導の工夫を行った中学校における言語・数理運用科の事例を紹介します。

## 課題解決場面

## 考えさせるための支援を充実

言語・数理運用科編

授業において、考えさせるための発問や支援が不明確で、子どもたちが何をどのように考えたらよいか戸惑ったり、考えが拡散しすぎたりするなどの状況が見受けられます。

このため、言語・数理運用科では、**考えさせるための発問や支援**が明確に示されています。教師はそのことを理解し、課題解決の過程を通して意図的に指導することが大切です。

今回は、**課題解決場面**において、まず**教師が例示し、その方法を使って子どもたちが考えることができるように指導過程を工夫**した実践事例を紹介します。

中学校第2学年  
「SNSコミュニケーション  
を考えよう！」  
庚午中学校  
柴野 博嗣 教諭の実践

### 課題

SNSによるコミュニケーションの問題の原因を資料から読み取った情報を根拠に考えよう

★工夫 考え方を示し、実際に生徒と一緒にやってみる

#### ステップ①

関係付けて考える方法を、子どもたちにとって身近な例で確認する。

例) ディズニーランドの人気の秘密

時計がない

外の景色が見えない

【根拠】

【発問】  
時計がなくて、外の景色が見えないから人気の？

日常とは違う空間を演出しているからだと思う

【原因】

#### ステップ②

関係付けて考える方法を、実際に本時の課題で確認する。

スマートフォンの所持率が増加している

携帯電話等を使いたいじめ件数が増加している

【根拠】

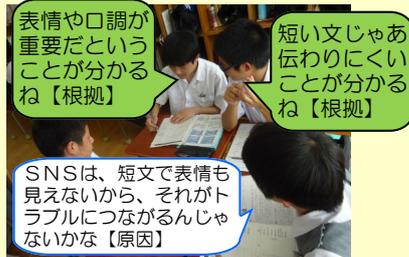
【発問】  
スマートフォンの所持率と携帯電話等を使いたいじめ件数が増えていることが原因なの？

SNSを使った知らない人とのコミュニケーションが増えたからだと思う

【原因】

子どもたちは、**関係づけて考える方法を意識し、資料から読み取ったこと【根拠】と資料から考えたこと【原因】を分けて考えるようになる。**

資料番号	資料から読み取ったこと	原因
5-①	1歳7か月から25年にかけて人口が増えた。	
5-②	スマートフォンを所持している人の割合が平成25年度には、約50%に達した。	スマートフォンを持つ人が多くなる。インターネットでやり取りする人が増える。その分トラブルも多くなる。
5-③	スマートフォンなどを長い時間使っている人が増えている。	長い時間もし、LINE等の会話をしている。途中で抜ける感じが悪くなる。



課題解決

## おしらせ

教育センターはみなさんの自主研修をサポートします

### 21世紀教育セミナー

「変わるしかなかった。」

～今振り返る葛藤の日々と、新たなる挑戦～

飽くなき挑戦を続け、新たな価値を創造し続けている人の体験や考えから学ぶ教養研修です。〔締切間近 11月2日(木)まで〕

平成29年11月9日(木)

14:30～16:30

講師 野球評論家(前広島東洋カープ監督) 野村 謙二郎

場所 JMSアステールプラザ 中ホール

※ 申込は教育センターまで

### 館内作品展示

広島市教育センターでは、館内に広島市立幼稚園・学校教職員の作品を展示することにより、館内の美的な環境と潤いのある雰囲気づくりに努めています。展示作品は、絵画・デザイン、彫塑・工芸、手芸、書、写真の5部門です。教育センターにお越しの際は、ぜひ足を止めて、ご鑑賞ください。

詳しくはこちら

<http://10.91.11.102/tenji/index.html>

### 教育実践サポート

月1回の土曜開館の際に、指導主事に直接相談することができます。事前に予約することもできますので、ぜひ活用してください。

11月担当	担当業務
西田 理恵	国語科(小) 生徒指導 等